



## 「あなたの神、主を愛せよ(2)」 (要旨)

申命記 6・1-9 説教者 原田憲夫

今週の聖句 詩篇 119・105

モーセは、神の民が「約束の地」を目の前にした分岐点-「今日」-に立ち、神の民が進むべき道を具体的に、明確な指標を示しました。今回は「唯一の神、主」を信じ、主に従う道への力強い訴えを中心に学びました。今日は4~9節後半部分の具体的な指標を学びます。

【1】 「これらのことばを心にとどめなさい」 (6)

＜聞け、イスラエルよ＞；この節全体を＜シエマ＞と呼び(マタイ 22:37,38)、ユダヤ人の会堂(シナゴグ)での礼拝開始の言葉です。このとき神の民が心して聞くべきは、神である**主**の「みことば」です。

(1) 神の民は「みおしえの書」に記されている主の命令と掟を守る ⇒申 30・10

「私たちの日ごとの糧を今日もお与え下さい」と祈る私たち・・・ただ、この時、「みことば-霊の糧-」への熱い思いが込められているのでしょうか。

私たちは毎日聖書-「いのちの糧」を頂くことでたましいを養い、「心を尽くして主を愛する」力が培われるからです。

(2) みことばは、あなたのすぐ近くに、あなたの口に、あなたの心にある

「みことば」は、遠い世界にあるものではありません。

⇒「まことに、みことばは、あなたのすぐ近くにあり、あなたの口にあり、あなたの心であって、あなたはこれを行うことができる。」(申 30・14)

▶6節「みことばを心にとどめる(刻む)こと」、これが土台です。

【2】 よく教え込みなさい (7-9)

親から子へ、子から孫へと世代を貫いて受け継がれる信仰の指標が具体的な形で示されます。

(1) 「子どもたちによく教え込みなさい」 (7a)

これが信仰継承の基本です。神のみことばをしっかりと心に刻み、口から口へ、心から心へ教えなければ信仰の継承はありません。

(2) 「みことばを唱えなさい」 (7b)

親たちは日常のあらゆる場面でみことばから離れない生活を「先頭に立って」(率先して)示すのです。

(3) 「手に結び、額の上に置きなさい」 (8)

→「経札」(マタイ 23・5) …＜シエマ＞を入れた「皮製の小箱」、で、祈りの

時に額や腕につけた。

具体的に見える形で…現代社会ではますます創意工夫がなされているでしょう。

(4) 「家の戸口の柱と門に書き記しなさい」 (9)

→「メズーザー」…＜シエマ＞を円筒状の小箱に入れて、家の扉や部屋の扉につけた。

多くの神々に囲まれたこの世界であって、唯一の神への信仰の立場を鮮明にします。今日の私たちは・・・

### 【感謝、招き】

▶感謝；二俣川時代から「聖書通読」を続けていること。・「みことばの光」(聖書同盟発行)、「日々の聖句(ロズガソ)」など用いて。

一日を「日ごとの糧を今日もお与え下さい」と祈ってははじめ、一日の終わりに感謝をささげることを繰り返す日常性が大切。明日のためには、「今日」、主に養われる必要があるからです。

e.g.聖書通読の働きを日本に最初に伝えたアデレイデ・ホイットニー；

1883年(明治16年)に、最初の聖書通読誌である「聖書之友」がスタート。

▷「唯一の神、主よ、あなたを愛し従います」、そう祈る私たちの人生にも、私たちの教会の歩みにも、困難や試練はこれからもやってくるでしょう。

しかしそのような中で、「今日」、「主よ、お話をください。しもべは聞いています」と「みことば」に耳を傾けましょう。

しっかりと「心の身支度」をして、主を愛する明日へと一歩踏み出そうではありませんか！

私たち-あなたを十字架の愛で愛し抜かれた真実の神、主を「心を尽くして…あなたを愛します」と、応答して歩もうではありませんか！

\* 祈り

\* 賛美

